
月の下のバレリーナ

月石真珠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

月の下のバレリーナ

【Nコード】

N3842F

【作者名】

月石真珠

【あらすじ】

昼に拒絶された少女の、独白詩。ある夜出会った自分とそっくりな少女と、昼の世界に戻っていく詩です。

（前書き）

はじめまして。月石真珠です。この作品は、私が初めて書いた詩です。まだまだの出来だと思いますが、頑張って書きました。

月の元、私は踊る。誰もいない夜の広場で。

月の光は私を照らし、私だけの舞踏会を開く。

私の他には誰もいない。静かな静かな舞踏会。

音はバレエのステップと、私の吐息、それだけで。

闇に響くステップは、まるで雨の雫のよう。

月の光はキラキラと、私を輝かせてくれるのだ。

やさしく、穏やかで、神秘的な月の光。

私だけに降り注ぐ。

月は、私の存在を受け入れてくれる。

今日も私は舞い踊る。美しい月の下で。

私は月の下のバレリーナ。

誰も知らないバレリーナ。

それでもある日、変わったの。

一緒に踊る、仲間ができた。

その子は私とそっくりで。

月に存在を受け入れられた、とても珍しい女の子。

だって、月は、昼から拒絶された人たちを

受け入れているのだから。

私の他にも、いたんだわ。

私だけじゃあ、ないんだわ。

私たちは、一緒に踊る。

今度は二人で微笑みながら。

月は、私たちを輝かせてくれた。

いつもと変わらぬ輝きで。

そしてあの時、あの子が言った。

月は、なんて私たちに勇気を与えるのかしら。

あの子の言葉で気付いたの。

月は、私たちを、昼へと戻そうとしていたことを。

私たちは、こんな淋しい暗闇の中に居てはいけないのよ。

私はあの子にそう言った。

そしたらあの子は微笑んで、

それじゃあ、一緒に昼の世界へ戻りましょう。

そして二人で踊りましょう。

今度は昼の世界でね？

そして私は昼の世界に戻れたの。

あの子もきつと、昼の世界に居る筈で。

あの子とはまだ、会えないけれど、

きつとまた、会えるよね？

会えたら一緒に踊りましょう。

今度は

“太陽の下のパレリーナ”になって。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3842f/>

月の下のバレリーナ

2010年11月14日15時15分発行